

国民健康保険グループからのお知らせ

▶ 問い合わせ 国民健康保険グループ (☎⁰⁵1771)

平成30年度国民健康保険税の納税通知書を6月中旬に送付します

◎平成30年度国民健康保険税額の計算方法

区分	①医療給付費分	②介護納付金分 (40歳以上65歳未満の加入者がいる場合に算定)	③後期高齢者支援金分
(A) 所得割	各加入者の課税標準額 (平成29年中の所得-33万円) の合算額×9.1%	40歳以上65歳未満の加入者の課税標準額 (平成29年中の所得-33万円) の合算額×2.5%	各加入者の課税標準額 (平成29年中の所得-33万円) の合算額×2.9%
(B) 均等割	世帯の加入者数×30,000円	40歳以上65歳未満の加入者数×8,700円	世帯の加入者数×8,400円
(C) 平等割	29,000円 (1世帯当たりの定額)	5,900円 (1世帯当たりの定額)	8,300円 (1世帯当たりの定額)
合計	(A)+(B)+(C)=①の税額 (課税限度額58万円)	(A)+(B)+(C)=②の税額 (課税限度額16万円)	(A)+(B)+(C)=③の税額 (課税限度額19万円)
①+②+③=1年間の国民健康保険税額			

※国民健康保険税は世帯ごとに計算され、低所得世帯は保険税が軽減される場合があります。
※地方税法施行令の一部改正に伴い、『医療給付費分』の課税限度額が54万円から58万円になりました。

医療費の抑制にご協力ください

国民健康保険に加入している皆さんが医療機関で支払う自己負担額以外の医療費は、皆さんが納めている国民健康保険税や国からの交付金などで賄っています。医療費の増加は、国民健康保険税の値上げにつながりますので、医療費抑制に向けた取り組みにご協力ください。



✓ 『かかりつけ医』に行きましょう

『かかりつけ医』とは、自分や家族の病歴などを把握している医師のことです。軽い症状のときは近所の『かかりつけ医』へ行きましょう。

✓ 『かかりつけ薬局』を決めましょう

複数の医療機関から処方された薬剤を1カ所の薬局で管理することで、同じ薬の処方や誤った飲み合わせを防ぐなどの効果も期待できます。

✓ なるべく、同じ病院へ行きましょう

同じ病気なのに、いくつもの病院に通ってしまうと、その都度、初診料がかかります。

✓ ジェネリック医薬品に切り替えましょう

『ジェネリック医薬品』(後発医薬品)は、先発医薬品と同等の効能効果をもち、低価格です。利用については、医師や薬剤師にご相談ください。

✓ 診療時間内に受診しましょう

休日・夜間診療は、医療費が高く設定されています。急病以外は、できるだけ平日の診療時間内に受診しましょう。

✓ スイッチOTC薬に切り替えましょう

医師の判断が必要だった医薬品を薬局で買えるようにしたものが『スイッチOTC薬』です。医療機関にかからずに医薬品を購入できるので、経済的負担を減らすことができます。

✓ 定期的に健診を受けましょう

病気の早期発見・治療は、早期回復につながり、皆さんの経済的負担も少なくなります。市の国民健康保険に加入している40歳以上の方は、毎年度1回、特定健診や各種がん検診を無料で受けることができますので、詳しくは問い合わせください。

✓ 生活に運動を取り入れましょう

市の国民健康保険に加入し、特定健診を受診した40歳以上の方は、市民プール『らくあ』での利用料助成を受けることができます。